ヲ三人宛ノ状況ノ処モアリ握飯一人三個乾パン一人一個宛貰ヒ或ハ同ジ者ガ何回モ貰ツテ満腹シタ者モアツタ

(ニ)本町二丁目附近デ一巡査ガ全身血泥ニナツテ消火ニ努メテ遂ニ火ノ下敷トナツタノヲ見テ真ニ拝ミ度イ気持ニナツタ

(ホ)モツト疎開手続ヤ輸送関係ヲ簡易化シテ呉レテ居タラ疎開モ敏速ニ行ハレ今度ノ如キ大キナ被害ヲ受ケズニ済ンダロウ

(ヘ)区役所ノ救護対策ハ机上計画ニ過ギズ何等実質ガ伴ツテ居ラナイ被害調査トカ何ントカ称シテ調査ノミニ狂奔シテ救護ト云ウ事ヲ完全ニ忘レテ居ル斯様ナコトデハ安心シテ最後迄大阪市ニ止マリ敢闘スル気持ヲ失フコトニナル現在意気消沈シテ居ル罹災者ヲ憤起明朗化セシムルニハ先ズ何ヨリ食糧ヲ与ヘ然ル後鼓舞激励シ以テ敵愾心ノ昂揚ヲ図リ其の上デ必要ナル調査ヲ行フベキデアル

(ト)今度ト云フ今度ハ余程当局ハ罹災者ノ救護ヲ甘クヤラナケレバナラヌ若シ万一其ノ適切ヲ誤マランカ夫レコソ戦争ハ国内ヨリ負ケテ来ル

(チ)大火ノ前ニハ穴倉モ待避壕モ何モナラヌ疎開徹底ニ依リ広大ナ防空々地ヲ強化スルコトガ必要ダ

(リ)大挙来襲ニハ局部的ナ消火ニ捉ハレズ大局ヲ判断シテ延焼防止ノ一点ニ集中スルヤウ指導スベキデアル

2 軍ニ対スルモノ

(イ)従来一機ヅ、侵入シテ居タ敵機ニ対シテハ味方機ガ飛ビ立ツテモ敵機ヲ捕捉スルノニ困難デアルカラ之ヲ攻撃ニ飛立タナイト言ハレテ居タノデ吾々モ其ノ気持ニナツテ居タガ此度ノ空襲ニ敵機ノ侵入シ来タノガ監視哨ニ於テ一々判ツテ居ルノニ不拘味方機は何故大阪上空ニ侵入スル以前ニ之を捕捉シテ攻撃シナカツタダロウカ味方機ガ有ルノカ無イノカ判ラナイ

(ロ)一体コンナニ焼ケ出サレテ怎ウナルダロウ戦争ノコトガ心配ダ新聞デハ十一機撃墜ト発表サレタガ何処デ墜サレタノカ判ラナイ僅カ九十機位デコンナ状況ダ独逸ノヤウニ五百機モ千機モ来テ爆弾ヤ焼夷弾ヲ混合シテ落シタラ此ノ上怎ウナルダロウカ心細イコトダ

(ハ)軍防空態勢ノ脆弱性ハ意想外ダツタ之ガ為軍ニ対スル信頼感ハ漸時稀薄化シ戦争将来ニ対スル危惧ハ益々加ハツタ

(ニ)軍ハ此ノ際建軍以来ノ精神ニ還元現在ノ政治責任ヲ痛感シ作戦ノ徹底ヲ期シ守勢態勢ヨリ攻勢ニ転移スル様猛省スベキデアル

(ホ)配給モセズ軍用ト言ツテ保存シテアツタ食糧ハ大変ナモノダ之ヲ焼ク位ナラ一般ニ配給シテ置ケバ良イモノヲ

(ヘ)軍ノ方デハコンナコトニナル位ノコトハ世界ノ実例カラデモ少シハ判ツテ居タト思フガ何等ノ対策モナカツタモノカ

なお、この警察局資料には、七月十日の堺空襲についてもくわしく記されており、アメリカ軍資料に対して、日本側の〝公式〟資料ともいうべきものといえる。

このほか空襲以前は混雑を極め入湯難を嘆ぜられていた市中の銭湯が、疎開者の激増によって俄然緩和され、残留市民は久しぶりに手足を伸してゆっくり入浴の楽しみを味うことができたのも珍しい現象の一つであった。

第二次空襲　第二次空襲は昭和二〇（一九四五）年六月一五日行なわれた。この日、朝九時頃警戒警報が発令され、つづいて防空情報は紀伊半島南方洋上を北進するB29の大編隊があり、阪神地区に来襲する公算がすこぶる大きい旨を告げ、同時に空襲警報が発令された。この日は、密雲深く視界極めて不良で、盲爆される危険がすこぶる濃厚であった。

九時二〇分、漠々たる雲上にB29の編隊の爆音を聞いたが、間もなく市役所付近上空で焼夷弾が投下され、東南風に乗った火箭は、新町・瓦町・戎之町・熊野町東部・一条通乃至六条通一帯に落下し、たちまち火の海と化し、折から堺東駅上りホームに停車中であった二輛連結電車にも命中炎上した。これが当日の堺市爆撃の第一波であって、その後一〇分乃至二〇分の間をおいて第二波・第三波の攻撃があり、市北部工業地帯はたちまち猛炎に包まれ、黒煙が天をこがす様相となった。

写 149　第二次空襲（渡辺庫治撮影）

しかし当日は白昼のことでもあり、市民防空団の活躍と、河盛市長の陣頭指揮による各機関の敏速な活動によって、比較的早く鎮火させることができた。市では午後三時から緊急市会をひらき、別項のような戦災状況を報告するとともに、救援予算の承認を求めた。

被害状況、全焼二九五戸・半焼一三六戸、罹災者一、三二五名、死者八名・重傷者二九名・軽傷者二八名

各学区別被害状況　錦綾学区　全焼二五七　半焼七八
五ケ荘学区　全焼一　罹災者一二　三宝学区　半焼三　罹
罹災者一、一一三　死者五　重傷者二三　軽傷者二三
災者七　重傷者一　軽傷者一　向陽学区　半焼二　罹災者六　重傷者一　軽傷者一　錦学区　全焼一八　半焼三一
死者二　軽傷者二　殿馬場学区　全焼二　半焼七　罹災者一五　東百舌鳥学区　全焼一　半焼一五　罹災者一〇五
重傷者二　軽傷者一　金岡学区　死者一　重傷者二

市営造物では錦綾国民学校が全焼した。焼失建物は六五五坪六勺であったが、これにたいし不動産保険二四万六、〇二〇円六四銭・動産保険三万二、五〇五円八〇銭、合計二七万九、一二六円四四銭の保険が契約してあった。錦・殿馬場・西屋敷各国民学校にも焼夷弾が多数落下したが被害はなかった。水道は送電線が切断して一時停電したため、水圧の低下をきたしたが、間もなく復旧した。

ほかに土師の農家一七戸の全半焼、北部実行組合員農家二〇戸の全半焼があり、役牛一頭、甘藷苗床、収穫した麦に若干の被害をみた。

罹災者は一時向陽国民学校に収容され、市は五千人分の食事を用意し、蒲団その他の必需品を適宜配給した。なお救援費として一〇万一、九〇〇円（市費負担三、〇六〇円）を計上し、負傷者は松下病院に九名、堺病院に一二名、井上病院に三名、市民病院に五名、富山病院に五名、総計三四名（内訳、重傷者一七名・軽傷者一二名・死者五名）を収容して治療にあたった。

写 150　第三次空襲のあと（渡辺庫治撮影）

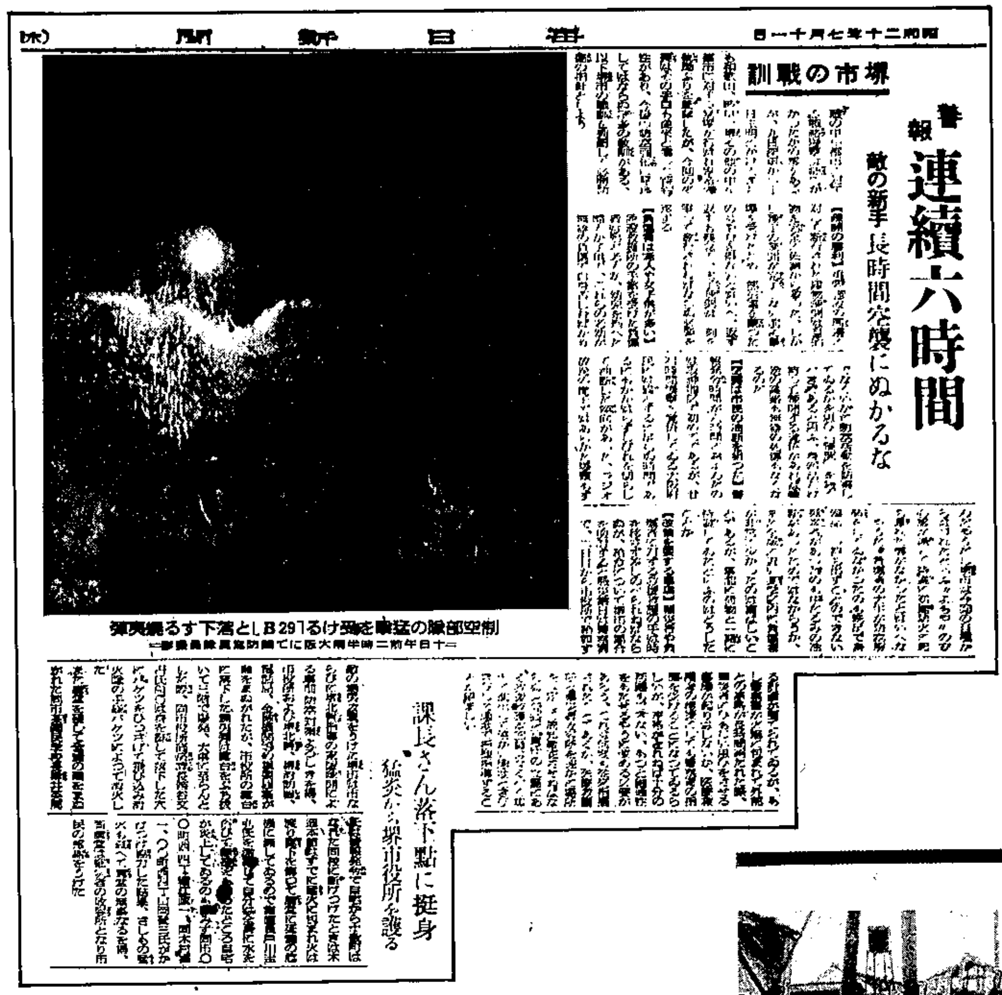
第三次空襲　第二次の空襲からわずかに一週間をおいて昭和二〇（一九四五）年六月二六日、矢つぎばやに第三次の空襲をこうむった。この日白昼米機は大阪湾上から侵入し、主として三五〇キロ爆弾を投下した。このため、戎島二丁の三和鉄工所をはじめ民家全壊三戸・半壊七戸、櫛屋町西三丁の民家全壊三戸・半壊二〇戸、総数三三戸の全・半壊の被害をこうむり、一〇〇名の罹災者を出し、重傷者二名・軽傷者八名・即死者四名、合計一四名の犠牲者を数えるに至った。このほか爆風のため屋根・ガラス障子・窓・格子等が破壊されたもの約一〇〇戸におよんだ。市は直ちに罹災者・負傷者にたいして応急治療の途を講じ、また食糧その他の日用品等を支給し、救援にあたった。

なお当日、高射砲弾破片により死者一名を出したが、五回にわたる空襲中この種の被害はこの一件のみであった。

堺大空襲翌日の新聞

堺大空襲を伝える翌日（7月11日付）の毎日新聞（毎日新聞大阪本社提供）

堺市の戦訓として、猛炎から市庁舎を守った記事もみられる。



昭和二十年七月十一日

毎日新聞

堺市の戦訓

警報　連續六時間

敵の新手　長時間空襲にぬかるな

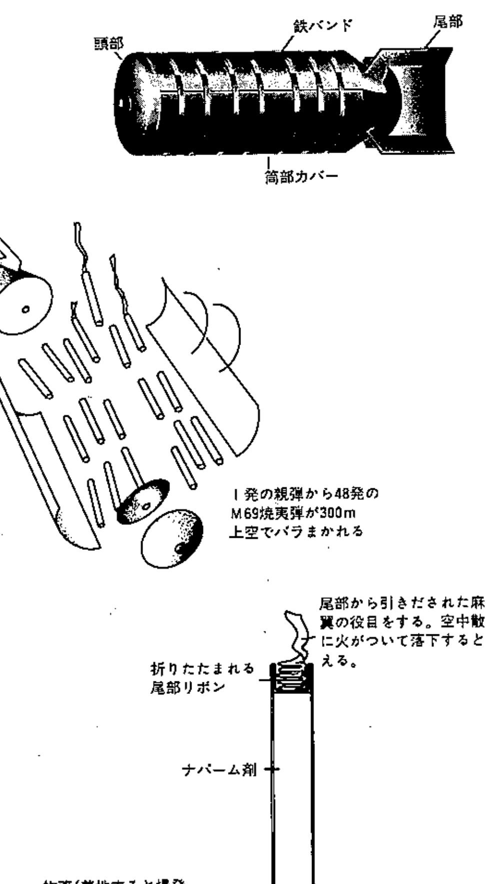
制空部隊の猛攻を受けるB29と落下する焼夷弾

＝十日午前二時半南大阪にて防空監視員撮影＝

課長さん落下點に挺身

猛炎から堺市役所を護る

堺空襲にも使われたM69集束焼夷弾



鉄バンド
尾部
頭部
筒部カバー
1発の親弾から48発のM69焼夷弾が300m上空でバラまかれる
尾部から引きだされた麻製リボン。尾翼の役目をする。空中散解のときこれに火がついて落下するとき火の雨に見える。
折りたたまれる尾部リボン
ナパーム剤
炸薬（着地すると爆発してナパーム剤をまきちらす。）
信管

「あれから40年　本土大空襲展」（朝日新聞社発行資料）から